

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
アジア動物専門学校	平成19年3月15日	佐山 百合子	〒315-0015 茨城県石岡市貝地2-8-38 (電話) 0299-35-5380																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人佐山学園	平成19年3月15日	佐山 等	〒315-0015 茨城県石岡市貝地2-8-38 (電話) 0299-35-5380																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化教養専門課程	動物総合学科(ドッグトレーナーコース)	平成21年文部科学省 告示第21号	—																							
学科の目的	建学の精神に基づき、世界に通用する技術力、高い知識に裏付けられた応用力、動物愛護の精神に溢れた豊かな心、動物と共生する喜びと感謝の気持ちを育成し、真の動物との共生の実現に寄与できる心豊かなスペシャリストを育成することを目的とする。																										
認定年月日	平成 26年 3月 31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	2,250時間	524時間	0時間	1,726時間	0時間	0時間																				
単位時間																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人	143人(21人)	1人(1人)	6人	6人	12人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業科目毎に定める成績評価方法により、期末試験・実技試験・レポート・履修状況等を総合的に評価する。																							
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月24日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■春季:3月25日～4月7日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	再評価後の単位取得状況が、下記の要件を満たす必要がある。 ①取得単位数が、進級時は所定の単位数の80%以上、卒業時は90%以上を取得していること ②実習科目の単位を全て取得していること ③所定の学費を完納していること																							
学修支援等	■クラス担任制: 無 ■個別相談・指導等の対応 個別面談、個別指導、保護者面談、三者面談の実施		課外活動	■課外活動の種類 動物福祉推進活動、動物介在活動、校外清掃活動 ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) しつけ方教室、ペットショップ等 ■就職指導内容 就職対策講座、学内企業説明会、全国ペット協会主催合同就職説明会、就職個別面談、履歴書添削、模擬面接、求人情報提供等 ■卒業者数 : 8 人 ■就職希望者数 : 5 人 ■就職者数 : 5 人 ■就職率 : 5 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 63% % ■その他 ・進学者数: 0人 令和 2年度卒業生に関する 令和3年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年3月31日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NAVAドッグトレーナー1級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>NAVA動物介在福祉士</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>NAVAリマラー3級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>日本動物理学療法協会動物理学療法士</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	NAVAドッグトレーナー1級	③	8人	8人	NAVA動物介在福祉士	③	8人	7人	NAVAリマラー3級	③	8人	8人	日本動物理学療法協会動物理学療法士	③	4人	4人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
NAVAドッグトレーナー1級	③	8人	8人																								
NAVA動物介在福祉士	③	8人	7人																								
NAVAリマラー3級	③	8人	8人																								
日本動物理学療法協会動物理学療法士	③	4人	4人																								
中途退学の現状	■中途退学者 2人 ■中退率 8% 令和2年4月1日時点において、在学者21人(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者19人(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活不適應 ■中退防止・中退者支援のための取組 個別面談、保護者面談、三者面談の実施																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 給付型奨学金制度、交通費等給付制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(給付実績: 無)																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										

当該学科の
ホームページ
URL

<http://www.aaa.ac.jp/>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット業界が求める即戦力となる人材を育成するために、教育課程の編成において、業界関連企業や関連団体等と連携し、業界の意見や要望、アドバイス等を反映した実践的なカリキュラム編成を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

ペット関連企業・業界団体役員、学校長、教職員により教育課程編成委員会を構成し、学校組織から独立した委員会として位置付け、広い見識から教育課程について議論できる組織とする。委員会から受けた助言・提言を学内の職員会議で協議した上で、本学の教育課程の編成に反映させるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
皆川 武久	アイ動物医療センターグループ 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
小島 章義	一般社団法人全国ペット協会 会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
佐山 百合子(委員長)	アジア動物専門学校 校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	
藤田 圭佑	アジア動物専門学校 教務長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	
小坂 邦彦	アジア動物専門学校 事務長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数:2回 開催時期:8月～10月、2月～3月

(開催日時)

第1回 令和2年9月2日 17:00～18:00

第2回 令和3年3月16日 17:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会において、ペット業界は専門分野に特化するのではなく、動物に関する幅広い知識と技術を兼ね備えた人材を求めているという提言を受けて見直したカリキュラムで授業を行った結果を報告し、更なる意見を求めた。また、ペット業界と連携した研修制度について提言があり、令和3年以降の研修計画策定時に反映させることとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

連携するペット関連企業における実習や連携企業の実務経験豊富な講師が担当する実習により、業界の求める実践的なスキルやコミュニケーション力、ビジネスマナー等を習得した即戦力の人材を育成することを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1年前期の学科共通科目では連携企業の講師による動物に関する幅広い知識や基礎技術を学んでおり、コース選択後は連携企業の1つは教室において実践的な実習を行うとともに、連携企業の実務経験豊富な講師による授業を行っている。

は、連携企業への研修/教員において実践的な実務を行うことにより、連携企業への動物性抗原検査に関する講師による授業を行っている。半期毎に定める評価方法により、企業担当者の評価も含めて科目担当教員が総合的に評価している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動物総合基礎実習	今後の進路選択の指標と意識向上を目的に、4コースの専門基礎を学び、動物に関する幅広い知識と技術を身に付ける。	(株)デン・ケリー
トリミング実習Ⅱ	しつけ教室、訓練所でのトリミング業務を担えるよう実技の習得とNAVATリマーライセンス2級の取得を目指す。	(株)デン・ケリー
ドッグトレーニング実習Ⅰ	犬の行動の意味を知り、基本的行動様式、適正なハンドリングの基礎を理解し動物の扱い方に活かす。	(株)コジマ
ドッグトレーニング実習Ⅱ	犬の起源・特徴を知り、基本的行動様式、適正なハンドリングの基礎を理解し実技での動物の扱い方に活かす。	(株)コジマ
ドッグトレーニング実習Ⅲ	犬の起源・特徴を知り、基本的行動様式、適正なハンドリングの理解を深め、実技で動物の扱い方を学ぶ。	(株)コジマ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

アジア動物専門学校就業規則第45条(職員教育、研修)及び教育研修規定に基づき年間研修計画を策定している。計画的に各種競技会や研修会等に参加することにより教職員の技術向上、授業改善や学生指導力の向上を図ることを基本方針とする。

① 専攻分野における実務に関する研修等

11月20日 ペットの専門店コジマ パピートレーニング研修

1月15日 ペットの専門店コジマ パピートレーニング研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

毎月第2木曜日 教職員のスキルアップ研修会

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

ペットの専門店コジマ パピートレーニング研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

授業研究, 学生指導, 就職サポート

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員の客観的な評価結果に基づき、評価項目の達成状況及び取組み状況を検証し、動物系専門学校としての本学の特色を踏まえ、改善しなければいけない課題や今後の取組みについては是正していくことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会の提言を受けて、職員会議において今後の学校運営と教育活動等を改善していくことを基本とする。

令和元年度の委員会における提言により生まれた就職サポートの体制についてはほぼ予定通り整えることができ、就職希望者のほとんどが就職内定を達成することができた。

令和3年度も引き続き新型コロナウイルスの影響が懸念されるため、よりきめ細かな個別での就職サポートを行っていく必要がある。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
皆川 武久	アイ動物医療センターグループ 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等関係者
小島 章義	一般社団法人全国ペット協会 会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	業界関係者
田村 順子	アジア動物専門学校 保護者代表	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	保護者
大谷 友希	株式会社デン・ケリー 卒業生代表	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()
令和2年8月公開

<http://www.aaa.ac.jp/>

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対して、ホームページにおいて学校情報を積極的に提供することにより、本校が目指す教育への理解をより深め円滑な連携を図ることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画

(2)各学科等の教育	動物総合学科の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

本校のホームページにおいて学校情報を提供

<http://www.aaa.ac.jp/>

授業科目等の概要

文化教養専門課程 動物総合学科(ドッグトレーナーコース)令和2年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
	○		ペットスタイリスト入門Ⅰ	シャンプーや皮膚・被毛のメカニズムなどグルーミングに関する基礎知識を身につける	1・前期	26	2	○			○		○			
	○		ペットスタイリスト入門Ⅱ	繁殖に係わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生児管理、遺伝学の基礎知識を習得する。また飼育に係わる管理法を学び、動物の生態や健康管理の基礎知識を習得する。	1・後期	14	1	○			○		○			
	○		動物飼育入門	動物関係の職業を希望する者のベーシックな知識として、エキゾチックアニマルの分類学、形態学、生理学、生態学及び飼養管理学の基礎知識を習得し、飼育員として法令・条例関係の背景や法令順守の精神を醸成する。	1・前期	30	2	○			○			○		
	○		動物看護入門Ⅰ	動物総合学科として、動物看護分野での基礎知識を身につけ専門科講義へのステップとする。また専門で学ばずとも動物と関わっていく中で必要になる知識を習得する	1・前期	66	4	○			○		○			
	○		動物看護入門Ⅱ	動物看護入門Ⅰで修得した、動物の基礎知識をさらに深めるべく動物の疾病・犬学・猫学・動物の幸せ・人間と動物の関係について知識を深め、今後の専門科目の学習、仕事へ活かせるように知識を修得する。	1・前後期	72	5	○			○		○			
	○		動物看護入門Ⅲ	近年飼育数の増えている猫について幅広い知識を修得し、動物病院以外でも活用できる知識を学ぶ。	2・前期	13	1	○			○			○		
	○		ドッグトレーニング入門	犬の起源・特徴を知り、基本的行動様式、適正なハンドリングの基礎を理解し実技での動物の扱い方に活かす。	1・前期	33	2	○			○			○		
○			動物総合基礎実習	今後の進路選択の指標と意識向上を目的に、4コースの専門基礎を学び、動物に関する幅広い知識と技術を身に付ける。	1・前期	105	4			○	○		○	○	○	
	○		ライセンス対策講座Ⅰ	人と動物の共生する社会が注目を浴び、動物の飼養管理法、接し方が変わりつつある中で、ペット産業に従事する者としての必要な基礎知識を身につけ、実務に対応できることを目指し、家庭動物管理士3級、ペットケアアドバイザー、ドッグインストラクター、トリマー3級の資格取得を目指す。	1・後期	30	2	○			○		○			

○	ライセンス対策講座Ⅱ	2年後期に実施予定の動物介在福祉士、キャットグルーマーB級の資格取得を目指し、各試験範囲のポイントを押さえる。	2・後期	15	1	○			○		○	
---	------------	---	------	----	---	---	--	--	---	--	---	--

授業科目等の概要

文化教養専門課程 動物総合学科(ドッグトレーナーコース)令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職対策講座Ⅰ	ペット業界・動物業界への就職を目指し必要なビジネスマナー全般を習得する。	1・前後期	45	3	○			○			○	
○			就職対策講座Ⅱ	ペット業界・動物業界への就職を目指し、希望企業からの内定を得るため、そして社会人に必要なビジネスマナー等を理解し習得する。	2・前後期	30	2	○			○				○
○			動物介在療法学	動物介在療法(AAT)とは何かを理解し、どのような活動がなされているかを知り、動物がもたらす影響を知る。	1年後期・2年前期	20	1	○			○				○
○			総合学習Ⅰ	学校行事や施設見学、就職説明会、特別講師による授業等を通して視野を広げ、協調性やチームワークを身につける。	1・前後期	82	3	△			○	○	○	○	○
○			総合学習Ⅱ	学校行事を通して、集団での行動を意識し社会(集団)でのあり方を学ぶ。	2・前後期	43	2				○	○	○	○	○
○			動物行動学Ⅰ	犬の起源・特徴を知り、基本的行動様式、適正なハンドリングの基礎を理解し実技での動物の扱い方に活かす。	1・前後期	70	5	○			○				○
○			動物行動学Ⅱ	動物行動学Ⅰから更に犬の起源・特徴を知り、基本的行動様式、適正なハンドリングの理解を深め、実技での動物の扱い方に活かす。	2・前後期	60	4	○			○				○
○			トリミング実習Ⅰ	NAVAトリマー3級ライセンスの取得を目指す。	1・前後期	147	5				○	○		○	○
○			トリミング実習Ⅱ	しつけ教室、訓練所でのトリミング業務を担えるよう実技の習得とNAVAトリマーライセンス2級の取得を目指す。	2・前後期	187	6				○	○		○	○

○			ドッグトレーニング実習Ⅰ	犬の行動の意味を知り、基本的行動様式、適正なハンドリングの基礎を理解し動物の扱い方に活かす。	1・前後期	350	12				○	○	○		○	○
○			ドッグトレーニング実習Ⅱ	犬の起源・特徴を知り、基本的行動様式、適正なハンドリングの基礎を理解し実技での動物の扱い方に活かす。	2・前期	315	11				○	○	○		○	○

文化教養専門課程 動物総合学科(ドッグトレーナーコース)令和2年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			ドッグトレーニング実習Ⅲ	犬の起源・特徴を知り、基本的行動様式、適正なハンドリングの理解を深め、実技で動物の扱い方を学ぶ。	2・後期	315	11				○	○	○		○	○
○			就職対策実践講座Ⅰ	オープンキャンパスを通して、就職対策講座で学んだ接客対応を実践し、社会で通用する技術を学び、サービス精神を理解する。	1・後期	56	2				○	○			○	○
○			就職対策実践講座Ⅱ	就職対策実践講座Ⅰから、更に仲間同士でのコミュニケーション、教員(上司に相当)とのコミュニケーションを通して、社会での自分自身の立場を理解しながら目的を果たせるか実践を通して習得するとともに、1年への指導を行う。	2・前後期	126	4				○	○			○	○
合計					24科目		2,250単位時間(95単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
再評価後の単位取得状況が、下記の要件を満たす必要がある。 ①取得単位数が、進級時は所定の単位数の80%以上、卒業時は90%以上を取得していること ②実習科目の単位を全て取得していること ③所定の学費を完納していること	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。